

テーマ：景気動向指数（10月）の予測

発表日：2008年11月28日（金）

～一致、先行とも大幅悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 一致、先行とも急低下

11月28日時点で公表されている統計により計算を行うと、10月のC I一致指数は前月差▲2.1ポイント、C I先行指数が前月差▲4.3ポイントが予想される。ともに大幅なマイナスとなり、景気が急速に悪化していることが示される見込みだ。特に先行C Iは前月差で過去最大の落ち込みになる。なお、先行、一致とも、採用系列のすべてがマイナスに寄与する見込みであり、景気が広がりを持ちながら悪化をしていることも示されるだろう。

一致指数の基礎統計である所定外労働時間指数（12/1公表）と中小企業物価指数（工業製品）（公表日未定）が現時点で未公表であるため、今回の試算では仮置きして計算している。この結果次第では、一致C Iの予測値を変更する可能性がある。また、法人企業統計（季報）が12月4日に公表されることにより、C I一致指数、先行指数の7～9月の水準が遡及改定されることにも注意が必要である¹。

○ 景気の悪化ペースは今後加速する見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「悪化」が維持される見込みである。C I一致指数からは景気が引き続き後退局面にあることが強く示唆されている。

先行きについても、C I先行指数の悪化度合いから考えれば、景気の落ち込みペースが加速する可能性がある。実際、本日公表された鉱工業生産指数と11、12月の予測指数から判断すると、鉱工業生産は08年10-12月期には減産ペースが急加速する可能性が極めて高い。生産以外でも、10月分の経済指標には、非連続的な悪化を示すものがかなり多い。10月以降の景気状況は、9月以前とは姿が全く異なると見るべきだろう。10-12月期ならびに09年1-3月期の景気は相当の悪化を覚悟しておく必要がある。筆者は、08年10-12月期の実質GDPを前期比年率▲2.6%、09年1-3月期を同▲1.1%と、コンセンサス対比で慎重に予測していたが、このところの経済指標の急激な悪化をみる限り、さらに下方修正する必要があるかもしれない。なお、10月以降の景気指標が急低下しているのは日本に限らず、世界的な現象である。下支え役を欠いた世界経済は、10-12月期に急激に悪化することが予想される。

○ D Iは、先行、一致ともゼロに

D Iについては、先行指数、一致指数ともに0.0%と予想される。一致、先行ともゼロになるのは1997年12月以来のことである。景気の悪化が広がりをみせていることが分かる。

¹ 一致指数の採用系列である営業利益、先行指数の採用系列である投資環境指数（製造業）がそれぞれ改定される。

(資料1)

CI一致指数

(2005年=100)



(資料2)

CI先行指数

(2005年=100)



(資料3) 一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度の予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
有効求人倍率(除学卒)	-0.37		
中小企業売上高(製造業)	-0.35		
鉱工業生産財出荷指数	-0.35		
生産指数(鉱工業)	-0.35		
商業販売額(卸売業)(前年同月比)	-0.32		
大口電力使用量	-0.27		
投資財出荷指数(除輸送機械)	-0.15		
所定外労働時間指数(製造業)	-0.06		
商業販売額(小売業)(前年同月比)	-0.02		
営業利益(全産業)	0.00		
稼働率指数(製造業)	0.00		